

平成30年11月14日

福岡市立
特別支援
学校

「博多高等学園」見学会



福岡市PTA協議会理事を対象に、福岡市立特別支援学校「博多高等学園」の見学会が行われました。博多高等学園は、15歳から18歳の知的障がいのある生徒が通う特別支援学校です。特別支援学校を視察するにあたり、福岡市PTA協議会として「特別支援学校への理解浸透」をテーマに掲げて取材してきました。

- 平成30年度特別支援学校見学会一覧
- 西区……12月1日 今津特別支援学校
 - 城南区……11月28日 屋形原特別支援学校
 - 南区……12月17日 若久特別支援学校
 - 中央区……11月27日 福岡中央特別支援学校
 - 東区……11月13日 東福岡特別支援学校
 - 特別支援学校……11月14日 博多高等学園

学校説明

ホンモノを目指した作業学習

知的障がいのある生徒たちが就労するためには、得意なことや興味、関心を生かせるような職種や職場を経験する中で、能力や適性を見出すことが重要。そのため次のような取り組みが行われています。

ふ よ う

発行所

福岡市中央区天神1丁目10-1

市庁舎北別館
福岡市PTA協議会

発行人

会長 西方俊司
広報委員会



福岡市PTA協議会
ホームページ
http://www.fukuokacity-pta.jp



福岡市PTA 印刷 (株)西日本新聞印刷

校内見学

見学日は、週2日間設定され、全校生徒で取り組む「作業学習」を見学しました。

校内では4つの班を編成して様々な作業が行われていました。

- 1 食品、接客班
- 2 流通、事務班
- 3 清掃、福祉班
- 4 環境、園芸班



清掃の除菌作業をしている生徒、パンを作る生徒、みんな静かにもくもくと作業をしていました。

私たち見学者に「こんにちは！」と頭を下げ、元気に挨拶してくれました。



屋上の「天空農園」で活動していた農園グループは唐辛子の収穫をしていました。収穫した唐辛子は乾燥させて粉末にし販売しているそうです。農園グループの生徒に先生が「作業する上で気をつけていることは？」と質問すると、みんな口を揃えて「体力です」と笑顔で答えてくれた姿が印象的でした。

校内カフェ 桐のはな

見学の最後に、校内の「カフェ桐のはな」に行きました。生徒を中心にパン、焼き菓子などの製造、販売、接客を行っています。営業日にはカフェの利用と商品の購入も可能です。早速、カフェの中のテーブルにつきますと接客担当の生徒が「何になさいますか。」と注文を取りに来ました。「コーヒーを一つお願いします。」と言うと「かしこまりました。しばらくお待ちください。」と返事をしてくれました。会計のレジでは、「〇〇円になります。」「ありがとうございました。」とお客さんとの対応をしていました。自分の仕事にしっかりと取り組んでいる姿がありました。

この日は、カフェの人気メニュー、シフォンケーキをいただきながら博多高等学園のPTA役員の方々とお話をさせていただきました。ある役員の息子さんは発達がゆっくりでほかの子と違うなと感じながらも障がいではないと、その時の状況が受け入れられず苦しい日々を過ごされていたそうです。そんな時、「ママ」と呼ぶことができなかった息子さんが、辛そうなお母さんを見て「ママー緒だよ」と声をかけてきたそうです。その言葉にハッと、全てを受け入れて息子さんのために笑顔ですごそうと決めたそうです。「子どもはお母さんの笑顔が大好きなんですよ」と素敵な笑顔で話をしてくれました。私は、役員さんの話を聞いて、自分を振り返りいろいろな感情がこみあげて涙があふれてきました。そして、子ども自身をしっかり受け止め、親の愛情をもって子どもとともに歩んでいく姿勢が大切であることに気づかせてもらいました。この心温まる素敵なお話と学園の様子をPTA活動を通じて広めていけたらと思います。

博多高等学園で大切にされている「五語五心」

博多高等学園 五語・五心

- 自分が失敗したときに、
「申し訳ありませんでした」という言葉と、その反省の心
- 人から頼まれたときに
「はい、わかりました」という言葉と、その真摯な心
- 目標を達成したときに、
「みなさんのおかげです」という言葉と、その謙虚な心
- 人が困っているときに、
「私がします」という言葉と、その専任の心
- 人から褒められたときに、
「ありがとうございます」という言葉と、その感謝の心

毎日朝礼、終礼で唱和しているそうです。私たちが大人も普段違っていると思っていても違えていない言葉や心があります。とても素晴らしい言葉と心。私も大切にしていきたいと思えます。



作業学習

したい仕事からできる仕事を増やし、就労の可能性を高めます。職業意識の育成、基礎的な作業スキルの習得を目指し、毎週火・水の全日取り組みます。

様々な企業様にも、協力していただき、次の3種類の作業も実施しています。

- 1 企業内作業
企業に出向いて、清掃、洗車、商品の包装など、実際の仕事に取り組みます。指導者の指示に従って作業する力が重要です。就業時間に合わせて、現地集合・現地解散する場合もあります。
- 2 受注作業
依頼された作業に取り組み、商品を持って納品したりすることです。依頼や注文など発注の指示通りに、確実に仕上げる必要があります。また、発注書や安全書にも記載しながら、作業する力が求められます。
- 3 受託作業
調理や手拭きの納入、チラシの訂正と封入、菓子包み入れ等、企業から依頼された作業に取り組みます。また、自転車販売店や病院での企業内作業を通して、働く意欲や技術の向上を目指しています。

食品・接客班

製造グループでは、衛生面に関する意識を高めます。パンやシフォンケーキ、クッキー等の焼き菓子を製造しています。接客グループでは、お客様に喜んでいただけるよう、笑顔で気持ちの良いおもてなしを目指しています。

清掃・福祉班

清掃・福祉・洗車の3グループに分かれ、利用する方を思いやる「まごころ清掃」を合い言葉に作業に取り組みます。また、自転車販売店や病院での企業内作業を通して、働く意欲や技術の向上を目指しています。

流通・事務班

企業からの受託作業(チラシ封入・封入等)や先生方からの受託作業(印刷、名刺作成等)に、心を込めて取り組んでいます。職場での挨拶やマナー、必要に応じて報告・連絡・相談などの上達を目指して頑張っています。

環境・園芸班

水工グループでは、受注した製品を作り納品しています。農園・園芸グループでは、天空農園での野菜栽培、公衆館や大浜花壇・博多川花壇の整美などを行っています。屋外で働くためには、体力や持久力を向上させることも重要です。

現場実習

企業で行う個別の現場実習です。校内での作業学習から離れ、学校の外に出てホンモノの職場を体験します。自宅から直接出勤し、出社～退社まで1日の流れを通して、働き方を身につけます。

2年生女子

スーパーマーケット実習

品出しや商品の加工・野菜の包装などをさせていただきました。雇われたことは野菜を決まった量に量ることです。また、衛生面に気をつけることの大切さを学びました。貴重な経験を生かし、さらに勉強にもつながります。

2年生男子

施設内外の清掃実習

施設内外の清掃などの仕事をさせていただきました。清掃中に、細かい汚れを見つけて戻されたことが嬉しかったです。今度は、周囲のスピードに合わせて行動することを意識して、学校生活を過ごしたいと思っています。

3年生女子

家具店での実習

家具店でベッドの組み立てや配送用の梱包等を行いました。土・日も働かせていただき、心配だった体力面の自信もつきました。梱包は、順番や組み方がひとつずつ違うので、アドバイスをよく聞くことを心がけて頑張りました。

3年生男子

レストランでの実習

レストランで食器洗浄やおしぼり準備等を行いました。グラスに指紋を残さないように拭くことが難しくなりました。食器洗浄は2度目で、丁寧に洗って運ぶまで意識して行いました。一人で任せてもらえるようになりたいです。

就労

週2回実施される作業学習で力をつけ、週単位など期間を定めて行う現場実習で経験を積み、社会へ出るための準備をしながら関係機関との連携や保護者の支援のもと、企業就労を目指します。

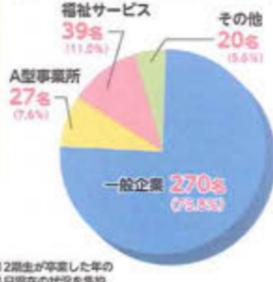
平成29年度[12期生40名中35名]の雇用状況

● 調理内業務 惣菜、ピッキング、発送補助、軽作業等	7名 (11名)	● 店舗内業務 品出し・前出し、清掃、接客等	5名
● 介護施設実習 高齢者施設・病院の清掃、周辺業務等	5名	● 調理補助業務 接客等の調理補助、食器洗浄、清掃等	4名 (11名)
● 事務補助業務 書類整理、PC入力、清掃等	3名	● 清掃業務 ビル・店舗・施設の清掃等	3名
● 工場内業務 加工食品の製造補助、容器洗浄、高圧洗浄、シール貼り等	3名	● クリーニング業務 業務用リネン・家庭用衣類の洗浄、仕上げ等	2名
● 農産業務 野菜の栽培・加工・販売、軽作業等	2名 (12名)	● 洗車業務 自動車販売店での洗車等	1名

一般企業就労者の雇用状況

就労のスタート時の「雇用形態」は、正社員は少なく、多くは正社員以外(パート・アルバイト)です。就労のスタート時の「勤務時間」は、6時間以上の勤務が約7割、4～6時間が約2割、4時間以内の勤務は約1割です。

1～12期生[356名]の進路状況



※1～12期生が卒業した年の5月1日現在の状況を集約

今年度採用された単位PTA活動活性化推進事業一覧

西花畑小学校 自己肯定感を深めるドリームマップ講演会

百道小学校 みんなで楽しくしめ縄づくり

南片江小学校 親子、地域、ふれあい味噌作り体験「南片江っ子わんぱく手作り味噌」

香椎小学校 子どもの目線でつくる安心マップづくり

賀茂小学校 賀茂小学校PTAフェスタ 菓子職人で夢

堤小学校 稲作体験

原田小学校 原田ちびっこ相撲大会

西椎浜小学校 三校ふれあい活動 工作によるレクレーション

有住小学校 平田オリザの世界「今日から演劇してみませんか」

塩原小学校 夢に向かってチャレンジ

元岡小学校 教育プロレス

石丸小学校 正しく知るメディアインターネット

東月隈小学校 がんばりっ子 東月隈っ子

高木小学校 高ピカ運動、環境授業、掃除

城西中学校 赤ちゃん抱っこ

南片江小学校

平成30年11月23日

親子、地域、ふれあい味噌作り体験「南片江っ子わんぱく手作り味噌」



茹でたての大豆の香りに包まれた体育館で、約170名の親子、地域の方々が参加し味噌作り体験が行われました。当日の講師は、学校給食に味噌を提供している、株式会社 田島屋味噌醸造元の柴田社長です。工程説明後に、味噌作りがスタートしました。

①塩と麴をまぜる

塩と麴の塊をほぐしながら、ムラができないように均一に混ぜていました。

②大豆をつぶす

使われている大豆は、福岡県産の「ふくゆたか」という品種です。一晩水につけて当日の朝に茹でたばかりの大豆を持ってきてくださいました。豆の状態を残さないように、一生懸命つぶしていました。

③種水、塩、麴、大豆をまぜる

まざりやすいように、種水を加えます。この日使用した水は、大豆のゆで汁でした。「粘土みたい」という声があちこちからあがりました。

④仕込み

味噌を野球ボールくらいの大きさに丸めます。そして桶にボール状の味噌をみんなで投げ込みました。勢いあまって桶の外に出してしまう一幕…



その後、田島屋味噌醸造元様にて熟成し、1月には配られます。出来上がりが楽しみです。普段、食卓にでる味噌がどのようにできるのか、興味津々で目を輝かす子どもたちがとても印象的でした。

百道小学校

平成30年12月16日

みんなで楽しくしめ縄づくり



この日は、あいにくの雨模様でしたが、百道小学校では初めてというしめ縄づくりを楽しみにしていた子どもたち。

百道校区にお住まいで、小学校では餅つきやわいわい広場で子どもたちにはお馴染みの、新原様と森様のご指導で、しめ縄づくりが行われました。

事前作業としてすわらの先端を揃え、短すぎるわらを省いていきます。それから、編みやすくするために木槌でわら全体をまんべんなく叩きます。力が強すぎたり、一か所にだけ集中して叩くとわらが切れてしまうので注意が必要です。作業の合間に、金・銀・色とりどりのワイヤーを使って水引を作りました。

全グループの事前作業が終わり、いよいよしめ縄づくりの始まりです。

わらの束を2本に分け、束の先端を足で踏んで固定し、2束を編んでいきます。手のひらで絞るように編むのがコツのことでしたが、なかなかうまくいかず難儀する親子も…新原様の熱心なアドバイスで、みなさんの土台が完成しました。

最後に、土台に正月用のオーナメント・稲穂・合間に作った水引を飾り、世界にひとつだけのオリジナルしめ縄リースの出来上がり。「できたー!」「早く飾りたい!」と会場が大喜びの表情であふれかえりました。

楽しみながら、日本の伝統文化に触れる機会をつくってくださった百道小学校のPTA役員の皆様、お疲れ様でした。



元岡小学校

平成30年12月1日

教育プロレス



蹴ったり、たたいたりするプロレス。人の痛みや何が正しくて、どんなことが卑怯な行為なのかを、プロレスを通して気づいてほしい。そして、どうすればいじめにつながらないようにすることができるかをプロレスを見て学んでほしいという思いから、この教育プロレスが実施されました。

まず、4名の保護者、先生方がプロレスの練習の体験をされました。何のために練習するのか、プロレスは危ない競技だから、自分の体を守るために練習しなければならない。体験された方からは、「痛くてびっくりした。痛いことをうまく回避する練習なんだと思った。うまくやらないと大きなけがをする。」という声がありました。

その後、二人(善人)と二人(悪役)の試合がありました。悪役のレスラーが卑怯な行為や反則行為を行いながらも、真剣に戦う姿に次第に引き込まれていく子どもたち。子どもたちからは、悪役の方の卑怯な行為に対して、自然と、「卑怯なことをするな!」「反則なんてするい!」「やられているレスラーに対して」「がんばれー」といった声が続々と出ていました。そして、それこそが、子どもたちに気づいてほしいことだと校長先生もおっしゃっていました。

終わった後、子どもたちからは、「二人がかりでやられると一人では何もできないから、誰かが助けてやらないといけなと思った。」「ダメなものはダメだと言う勇気ももらった。いじめをなくしたい。」という声が聞かれた。教育プロレスを主催されている団体の方も「悪いこと、卑怯なことはかっこ悪いことなんだと伝えたかった。そして、みんな違うからこそ、自分が活躍できる場所が必ずどこかにある。」とおっしゃっていました。プロレスを見る真剣な目と応援する力強い声がとても印象的でした。



Column

「感謝すること」

「気づくことからはじまる」



伊藤 俊夫

福岡市立 長丘中学校 校長

皆さんご承知のとおり、2020年度より大学入試が大きく変わり、従来の「センター試験」から「大学入学共通テスト」になります。この入試制度は、現在の高校1年生からその対象となるのですが、具体的にどのように変わるのか、その一例(国語)を以下に記します。

国語の問題では、記述式の設問が導入されることはよく知られていますが、その対象が小説や評論文などではなく、実用文になります。さらに複数の種類の文章を読むことになっていきます。文部科学省が目指しているものとしてさらに、多くの条件を踏まえた文章を書かせる。誰かの立場で文章を書かせる。最大で2000字程度の文章を20分程度の時間で書かせる等があります。

近年、情報化やグローバル化といった社会の変化が、人間の予測を超えて加速度的に進展してきています。進化した人工知能が様々な判断を行ったり、身近なもの動きがインターネット経由で最適化されたりする時代となり、社会や生活を大きく変える「予測不可能な社会」が到来するとの予測がなされています。このような様々な変化に対応していくために何が必要なのでしょう。

もちろんそれぞれの変化にピンポイントに対応しなければならぬのですが、私が考えるまず第一歩は、単純です。

それは「感謝すること」です。「感謝すること」には当然、何らかの対象があるはずですが。(保護者、友人、身の回りの環境等) その対象となるものに気づかないと「感謝すること」はできません。

気づきの感性を豊かに働かせ「感謝すること」こそが、大きな意味で、前述した変化に対応する第一歩になるのではないのでしょうか。また「どのような未来を創っていくのか。」「どのように社会や人生をより良いものにしていくのか」の答えを導き出す原動力にもなるはず。

【神戸金史氏】のご紹介

RKB毎日放送 報道制作局次長
兼 東京報道部長
2004年4月 東京社会部で自閉症児の父親の立場からコラム「記者の目」を執筆。7月には「うちの子自閉症とその家族」を連載
2005年RKBに転職、福岡に戻り、ドキュメンタリー「うちの子 自閉症という障害を持って」で同年のJNNネットワーク大賞を受賞されました。



息子さん1歳になるころ、障がい気づかれたそうです。レゴブロックを窓に投げつけてカラッと鳴る音が楽しくて1時間半ずつと遊んだり、抱っこしても目があわなかったりしたそうです。初めは仕事で忙しく家にいないから目をあわせないのかなあと思っていたそうです。

この時点で奥様はほかの子とは違うと感じ、知的障がいの本を購入し色々調べていました。

育てる上での基本は「大人になってからはいけないことは、小さいときからさせてはいけない」という方針のもと、様々な葛藤と闘いながら子育てをされてきたそうです。

障がいは個性と言われることもあったそうですが、神戸氏は「そうは思わない。答えをいきなり言われてもついていけない」と現実を受け入れるのに時間がかかったと話されました。

その後、何年かかかってこれは個性なのかもしれないと思えるようになったそうです。

2016年7月の相模原市での事件の直後に、Facebookに投稿した個人的なメッセージ「障害を持つ息

神戸氏は直視することから逃げ、障がいを認めたくない気持ちから奥様を怒ったそうです。子供によつて発達が違うのだからと…

その後、3歳の時に自閉症と診断されたそうです。

【現実の受け入れと自己肯定感】

息さんが4歳のころ、アクションを入れながら「お父さん」、「お母さん」を教えるコミュニケーションがとれるようになってきたそうです。

「自分は自分でそれでいいんだよ」と思えるようになっていかなかったら、息子さんへの影響は大きいと思います。息さんが4歳のころ、アクションを入れながら「お父さん」、「お母さん」を教えるコミュニケーションがとれるようになってきたそうです。

「自分は自分でそれでいいんだよ」と思えるようになっていかなかったら、息子さんへの影響は大きいと思います。息さんが4歳のころ、アクションを入れながら「お父さん」、「お母さん」を教えるコミュニケーションがとれるようになってきたそうです。

子へが反響を呼びました。そのメッセージに感動した神戸氏の友達が曲をつけてくれたそうです。

会場でその曲が流れました。とても素晴らしいメッセージと音楽に権松被告との面会を通じて、神戸氏が感じられた自己肯定感についてお話しされました。自己肯定感が低いと、自分は自分でいいと思えない、自分を認めてもらうために行動してしまう。このことが様々な問題を起してしまうのではないのか。

「自分は自分でそれでいいんだよ」と思えるようになっていかなかったら、息子さんへの影響は大きいと思います。息さんが4歳のころ、アクションを入れながら「お父さん」、「お母さん」を教えるコミュニケーションがとれるようになってきたそうです。

平成30年度福岡市PTA協議会
特別支援教育啓発研修会
開催日 平成30年11月15日(木)
会場 福岡市民会館大ホール
演題 「息子よ。そのままど、ら。」



平成30年度福岡市PTA協議会研修大会

平成30年12月13日に国際会議場におきまして「福岡市PTA協議会研修大会」を開催しました。

講師に、子どもたちを対象にした職業・社会体験施設「キッズニア」を運営するKCJ GROUP株式会社専務執行役員 能勢幸次氏をお招きし、「子どもたちに必要な生きる力を」と題して講演していただきました。

子どもたち自身が働くことの意味ややりがい、お金の価値などを知り、自分の将来について深く考えるきっかけになるように、学校・自治体・企業などと連携して提供されている様々な職業・社会体験プログラムのお話は、子育てやPTA活動に大変参考になりました。



【気をつけて！自画撮り被害】

青少年がSNSなどで知り合った人に言葉巧みにだまされたり、脅かされたりして、自分の下着姿や裸を撮影、送信させられる「自画撮り被害」が増加しています(平成29年福岡県49人)。



お子さんを「自画撮り被害」から守るためには、スマートフォンへのフィルタリング設定や、各家庭で話し合っつてスマートフォン使用時のルールを決めることが重要です。もし、お子さんが裸の画像などを要求された場合は、すぐに最寄りの警察署に相談しましょう。

※詳しくは「福岡県青少年健全育成条例」で検索してください。

【お問合せ先】福岡県青少年育成課

電話 092-643-3388
ファクス 092-643-3389

福岡市PTA協議会 小・中学生総合保障制度のお知らせ 安心してお子様をご養育いただくために

【小・中学生総合保障制度 (こども総合保険)】

お子様の「ケガ」「育英費用」やご家族の「個人賠償責任」などを補償します。

(学校内のケガの場合、「独立行政法人 日本スポーツ振興センターの災害共済給付制度」の給付とは関係なく補償されます。)

※保障制度の詳細につきましては、取扱代理店にお問い合わせください。

●制度に関するお問合せ先：取扱代理店 株式会社コーリン (福岡市PTA協議会保障制度事務局)

TEL: 0120-228-553 (通話料無料) (受付時間: 平日午前9時~午後5時 土・日・祝日、年末年始を除く)

●制度引受保険会社: AIG損害保険株式会社 東京海上日動火災保険株式会社 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 三井住友海上火災保険株式会社

2019年2月現在の内容です。

第63回日本PTA九州ブロック研究大会鹿児島大会

明治維新150年 語いもんそ鹿児島で～みんなで成長していくPTA活動～

10月27日(土)、28日(日)に、日本PTA九州ブロック鹿児島大会が開催され、九州7県から参加した約7400名のPTA会員が貴重な二日間をすごしました。27日は、8つの分科会が各会場で行われました。提案校の小学校・中学校からの提案発表に、九州各地から集まった参加者が耳を傾け、活発な意見交換が行われました。28日は、鹿児島アリーナにて全体会が開催され、アトラクション、表彰、記念講演等が行われました。

地域ぐるみ健全育成・支援・体験活動【一体感】

さんエールかごしま

《福岡市立能古小学校 提言》

討議題「地域とつながり子どもを守り育てるPTA活動」について、福岡市立能古小学校の坂あゆみ元担当副会長に「郷土を知ろう大作戦！」と題して提言を行っていただきました。



第4科会

◆能古小学校について

能古小学校は、福岡市内からフェリーで10分ほどの距離にある能古島にあり、創立143年を迎える歴史と伝統ある学校です。12年前より海っこスクール(福岡市の小規模校特別転入学制度)が導入されており、全校児童数71人のうち、島内から35人、島外から36人が通学しています。

◆「夏季集落」について

特徴的な活動のひとつに、50年以上続いている「夏季集落」というイベントがあり、夏休みに学校に1泊2日し、全校生徒のほぼ全員が参加して寝食を共にして様々な活動を行います。長年継続してきた中で内容もマンネリ化してきていたため、今回はアンケートを基にテーマを「郷土の歴史を知ろう！」とし、1日目の様々な活動のひとつとして「郷土を知ろう 講話&演劇『しかがき物語』」を実施しました。PTA役員が、自ら地域の方々や書籍から能古島の歴史について学び、作成した小道具などを活用しながら史跡や伝説について講話し、その後「劇団やくいんかい」と称して、役員と保護者らによって、島に今も残っている「しかがき(鹿垣)」についての劇を行いました。

◆今後について

今回アンケートを実施して会員の考えを反映したことで、児童・保護者・教師が地域の魅力を再認識でき、結果その3者の絆を深めることができました。能古島では成人式を島独自で開催しており、新成人となった島内・島外の子も達を、お世話になった保育園から中学校までの担任の先生や校長先生・地域の方々が集まって新成人をみんなで祝うなど、卒業後も教師や地域の方々との関係を築いています。今後も学校・家庭・地域が連携を深め、郷土を受取る心の醸成と、教科書にはない心の教育ができる環境を守っていききたい、という内容で提言は締めくくられました。

記念講演「大人が変われば子どもが変わる。子どもが変われば未来が変わる」

鹿児島アリーナ

アトラクション、表彰、次期開催地の福岡県大会の紹介等の後、株式会社てっぺん 代表取締役 大島啓介氏の記念講演が行われました。

全体会

◆大島啓介氏について

大島氏は、居酒屋「てっぺん」での『本気の朝礼』が話題になり、現在ではこの朝礼が企業だけではなく、中学・高校の部活などでも取り入れられています。また、2015年～2018年にかけて、約50校の高校野球部にスポーツメンタル研修を行っており、うち14校が甲子園出場を果たしています。

◆講演内容について

「大人が変われば子どもが変わる。子どもが変われば未来が変わる」と題して行われた講演は、参加者が隣同士でペアを組み「今年最高の一年にするには」とディスカッションを繰り返したり、参加者約7000人以上が総立ちとなり「本気のじゃんけん」をして喜びを爆発させてみたりと、とにかく寝る暇などない賑やかな内容でした。中でも印象に残ったのは「予祝(よしゆく)」という言葉。夢が叶う前に「夢が叶った！」と盛大にお祝いをし、それから夢が叶うまで毎日「夢が叶った時の事」を思い返ししながら行動すると、貧乏神が逃げて行って本当に夢が叶うというお話しが印象的でした。また、「お父さんやお母さんが「疲れた」と言う子どもはどう思うと思いますか?」「仕事って疲れるんだ」「大人って疲れるんだ」→「大人になりたい!」という風に子どもが希望を失ってしまいます。大人が変われば子どもは変わります。子どもが変われば未来が変わります。」というお話しにハッとさせられました。会場にあつまったPTA会員全員が元気をもらえた、そしてこれからの未来を担う子どもを育てていくエネルギーを与えられた大変貴重な講演内容となりました。



この度、ふよう131号の製作に携わらせていただきました。取材を通じて福岡市PTA協議会の取組を知ることができ、私たち広報委員もとても勉強になりました。この131号を読んでいただいた皆さまにも、PTA活動への理解を深めていただければ嬉しく思います。取材にご協力をいただきました各校ならびに関係者の皆さまありがとうございます。

編集後記



読者の声

130号モニターアンケート

吹奏楽部は、女の子が多い印象がありますが、男子だけで構成された楽団がある事に驚きました。スポーツ特待のイメージの強い東福岡高校に吹奏楽部があった事も初めて知りましたが、吹奏楽が好きな男の子たちにとってもたひとつ進路の選択も広がるのではないのでしょうか。最高のPTA事業だと思えます。紙面がとてもしっかりやすい(写真の数・配置・それぞれ(写み記事)と思いました。バツと目に飛びこんでくる紙面で、読みたくなります。

三行詩のお知らせ

平成30年4月～6月に、文部科学省・公益社団法人日本PTA全国協議会主催で募集をしておりました「楽しい子育て全国キャンペーン～親子で話そう!家族のきずな・命の大切さ～三行詩」の応募数は、2,769作品でした。(今回は福岡市からは、入選がありませんでした。たくさんのお応募ありがとうございました。)

委員紹介

委員長	西 区	菅 岐 東 小	野上進太郎
副委員長	東 区	美和台小	高木昇
第130号主担当	早良区	有住小	石丸真紀子
中央区	高取中	浅井崇代	
東 区	春吉中	森千恵	
特別支援	松崎中	高山由紀子	
南福岡特支	南福岡特支	小島貴文	
第131号主担当	城南区	南片江小	西村晴子
南区	東花畑小	今村佳子	
中央区	小笹小	塚本洋子	
博多区	板付小	齊藤麻矢	
城南区	長尾中	宮内あずみ	
第132号主担当	西区	吉岐丘中	辻 薫
南区	宮竹中	田川知幸	
博多区	吉塚中	阿部たかみ	
小学校	宮松小	振原基治	
中学校	長丘中	伊藤俊夫	
市P協担当役員	南片江小	川口三代次	
東花畑小	張浩子		
平尾中	木村由美		